### 組合の楽しい便り 投稿歓迎します

## 東京都ラベル印刷協同組合

憂111-0051 東京都台東区蔵前 4-16-4

## No413

令和元年9月号 編集:広報・情報システム委員会

TEL(3866)4561 FAX(5821)6443



私理力 事 月北の 長 で 島心月 に L 境が選 を 五. 連開た あは経 任 月 11 さ  $\mathcal{O}$ カゝ L れ 総 ま  $\mathcal{O}$ が ま 7 11 う L 間 で L で 間す た 6 が回 のかが

北島憲高新理事長に聞く

シールは加工に大きな特徴が 物づくりの精神忘れずに挑戦

思かタ

5 L

7

ま 方

両

方

で

バ

タ

7

j

れた

j

学

は

さ を

通

れ

0

ま

理

て ル き ま加ま 印 刷 ま 他 がは L  $\mathcal{O}$ 付 いら 印 れ加 刷 7 価 業 値 1 界 が ŧ シ V

と

す 工

ねと

う

に

達 見 事 は直そ 北いの羨 だ L 島 て、 な組 Р う  $\mathcal{O}$ R 合 う 員 ろ で 1 7 ŧ لح ザ を 11 す 最 < ŧ 1 ŧ 盛 う で に で 期 き 自一 す 分度か が  $\mathcal{O}$ ま

今

 $\mathcal{O}$ 0

組

合 L

運

ろ

7

ま

V

ま

L

た

え部

いろ

特 りル なジもすすな のう大 徴 ŧ • つタ 話のの青 北 で い幅 が加ラ う 島は T ル L で で年 あ 工 き 囙 ま 部 意 若 り、 ル て 刷 総 気 時 L 返 協 い印い ŋ を た 心代 う 会 組 ま う 刷 が で ま 無  $\mathcal{O}$ は カュ は 面 は す 視 時 知 b す L ま が で 今の n た れの ね 大印 き が で 後 挨 仲 T 長 成 き刷 シ な は拶 い間み す 長 なよ < デ で ま で そ W

助困

て

は な

教お

あい

組え互

け 0 分 間 り た で

合

0

て る で

れい

が

協

合

メ て

IJ

ツ

 $\vdash$ 

だ

思

ま 同 自 仲

る

け

で

す

5

か 多

 $\mathcal{O}$ が

所

で わ

き

٤,

あい

11

たこ

لح

だはで

けた学身

ま だ す

す

れ

< さ 目

思

V

合私た

自

くばもん

せ 三 あ L

がま

組

あ る るの高 ŧ لح はれ V もべ は カュ ル 多 ら行 で 緒 0 組 な 7 は 合 る 取緒 き  $\mathcal{O}$ と組に ま 協 支 思 で 組 部 で き た 合 会 ま る が 同 11 す

合合支組 う のは部合北の 会 教支よた会の島は活 う لح が原 大 動 え 活点 支 き を 部 ば 性 で な活 らい元ス化も会 課 発 لح ク 題に 気 あ IJ 7 る で す う す る あ 訳 11 と のがと ン る で 委 は V 組組

す 連 ル  $\mathcal{O}$ 年 لح 事 部 が 携 組 ま 自 組事 す Ł 分 合 長 北 5 た 員 が う を to に 事 ŧ  $\mathcal{O}$ 訴 参以 ま が う 組 え 加前 大 で 合 は 事 度 き な らら لح だ 再 ん ま 参 ŧ لح 認 だ L 画 代 す 思 識 لح た  $\sim \mathcal{O}$ と理

Ł

7 奈

北 増

島 え 神

れ <

ま لح 組

青 ま  $\mathcal{O}$ 

で思

\$ W

B

Ш

 $\mathcal{O}$ 

合

と

に \_\_

正

ん開 てはに う 員 み何組 催 ら لح 全 る な 合 組し 組 が 組委 Ł に 必  $\mathcal{O}$ 員 7 合 玾 合 所 要 かがあ員 t 員 属 が を 望 ŋ ま活 員 が ま す が あ £ 減 L W る 1) う で す 小 成 ず 全 ま 一いが L 支 ŧ 員 れ す 度 た t る 部 カ か昨 参 考 本 لح 5 会 1 え لح 当い

っに て 代  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ W が 型 委 か  $\mathcal{O}$ 員 成 L た加の年

ろ り ま ぞ一こ ががば 東 合 て 員 思 意 ち れ 人と す あ で自の は れがい を 事 事 0 当 いま改運 分 役 人 務 た 務 営 た 割 が 局 局れ 7 5 P とに で に す は て の責も L 頼 う が す 組任 カュ 否 り 0 11 かだ て で す < 合 を  $\emptyset$ け لح は 自 度 組 き ま ぎ ほ  $\mathcal{O}$ 11 自 覚 そ 合 なせ る う分しれ員いん面れいしいが

## 青年部令和初の定例会を

## 部員巡りで北島シール見学 さらに仲間同士の絆深める

し

が 1

0 ベ

て

1

F.

ント

の中交 れ画 7 参 央 流 ŋ ま に 今 会 加 業 神 P L 0 期 な Ο 計 いの 組 印 Ш 7 В 画 活 合 青 が 青 巛 話  $\mathcal{O}$ ŋ , 上 連 年 L

7

正は

札

懇 青 部

親年員

自

技

に深 め改た。 が 株 出 ま 多 そ 11 参 こうと 方 せ ま L  $\Diamond$ 加伊 て、 え W だ 面正 藤 が 青 L に 札 年 部 思 シ 今 懇 て < 1 て 親 神 口 新 1 だル ŧ た に  $\mathcal{O}$ ま 交 奈 さ す。 な は  $\mathcal{O}$ 定 流 Ш 有 る い伊 意 入 例 を لح 仲 2 ま藤 لح 会 义 間 て 3

後

会

+ =

日

午 定

ら月

和

年

度

初

8

 $\mathcal{O}$ 

近

に カュ 七 元

て

行 品

わ Ш

れ区

定

例

会

こうと は に ま  $\mathcal{O}$ ょ 各 不 り た。 北い部 動 う 員 部 前 た。  $\lambda$ 例 会 لح な ŋ É L

こと

で を 士 期 < 時 が

は

長

 $\mathcal{O}$ 

ル

印

所 ず

見

学 部

カュ

5

ス

タ 島

1

ま

L 刷 ま 0 知

た。

ŋ

行

て

同

を

る

た

め

な 場 う る に 同 お 入 士 万. る で ろ は لح を 問 がや あ 分 たく ŋ が は カコ ま 飛 n 0 び さ色 す て が 交ん Þ 気 11 0 あ て る に 工る

地 元 定  $\mathcal{O}$ 例 会 ス F は 場 ラ 所 & を

> フ 1 方 合 針 B が 事 行 業 わ計に

7 仲 間 同 士  $\mathcal{O}$ 絆 介流先 す ユ 期 様 に 体 次 端 待 々 お 認

的術 を ク  $\mathcal{O}$ 認 今  $\vdash$ 実 لح  $\mathcal{O}$ Α 識 L 施 活 U シ 口 と 本 V 用 Τ ス は 展 事 L О テ た 主 に 例 7 ム 催 ま 協 7  $\mathcal{O}$ 者 す 具 テ 自 D 会  $\mathcal{O}$ ] 現 動 プ  $\mathcal{O}$ 日 化 認 口 本 7 ジ 未 展 を 識 自 示 目 エ来 技 動

F セ 動 ネそ 認 Ι ツ ル  $\mathcal{O}$ D 識紹他 ŧ 事 チ イ 出 オ 例 展 メ で 1 わ企 1 ] 業 IJ カュ ド ア る ク  $\mathcal{O}$ 

自

## 自 動 認識 後の行方を占う一つの転 総合展に足 を運 ん でみ て

れ東ら 展 ま 京 + す。 F. が ツ 日 九 サ 口 月 ま 自 イ + で 1 動  $\mathcal{O}$ で 認 日 三 開 水 識 日 催 総 間 カコ

活

動

加

部

と 12

 $\mathcal{O}$ 

護、 元 同 さ な セ技 コ展 シ 証 V 災 ] れ 課 て、 キ 術 は Ľ, る 題 害 ユ を 画 最 IJ を 支 生 像 現 援な テ 産 認 網 適 対 1 R 場 Ĺ イ、 羅 な 識 F が 各 て تلح 流 な Ι 抱 種 活 の医 لخ 通 D 7 用 え 分 療  $\mathcal{O}$ 11 ソ まリが る 野 や物最生

> か 会 業 ベ て 場 が 方 画 者 て 11 活 次 印 き で を る  $\mathcal{O}$ L Ł 用 す 占 て 足 た て 多 分 刷 < う 野 業 を  $\otimes$ 11 お た 意 る に 界 運 n 新 味 今 新進 ん 企 で た 湖 業 で で 後 た 出 な ŧ 4  $\mathcal{O}$ ŧ L 市 市 進 て 7 目 ル 立出 場 11 < は ぜ が V  $\mathcal{O}$ を る 0 かラ

## まだ会 問琵 あ い大 흉

ま のの 会ル 方 加  $\mathcal{O}$ 史 申 開 湖 す ズ で 今 は は船 上開回 ぜ L  $\mathcal{O}$ 催 大 六 ス 京の初 は 申 込 会 催 S さ + 中  $\otimes$ さ 初 込 4 れは お で れ、 参 みが て  $\otimes$ ま 申 口 シお開琵 て 加を 間 す 込 年 懇 琵 忘に ョ茶 催 琶 下 が 月 次 屋 さ 湖 親 琶 さ れ 合 大 £ 湖 7 いま されの会 11 会 ま だ あ  $\lambda$ ク は ホ 11 五. でそ 大テ たす 参 ル 日

## 中小企業従業員のための生活資金

## 個人融資制度「さわやか」 年利 1.8%、70 万円まで

融 金 さ 資 が わ L 方 は 京 B 7 必 在 都 要 かい 生 住 で な ま 活  $\mathcal{O}$ は は、 方 資 中 す 金 小 都 個 を 企 内 ヤ結 時 人 低 的 融 婚 利 従 在 資 に 資 で 方  $\bigcirc$ 

利 L 込 用 4 11 た ただけ け まか る す 方

まざ

な Þ

お

9

11 

4 な

越

費

ジ

ま用

千 小 方 万 売 円 以 下 資 又 本 は金 従 • 業出 員 資 数金

る次 の (1) お お申 い ず 勤 れ  $\Diamond$ カゝ 先  $\mathcal{O}$ 該 会 当 社 L 等 て が

資 0 Ì 以 ピ 5 千 ス下 万 円 以 資 下 本 又 金 は 従 出 用 万

っ月以 1 1 は て 以 上(2) 0 億 卸 上 上 勤 現 従 出 記 0 円 売 資 人以 が勤居 務 在 業 以 IJ 務住 員 金  $\mathcal{O}$ 外 下 先、 勤 下 又 て 3 現 務 5 本 は 内現い 金 住 先 0 億 以 従 住 に 円 る 0 所 業 方 所 に 六 以 人

以 下 資

下

カコ

(4) 万 (3)円 住 年 以 間 民 下 収 税  $\mathcal{O}$ 入 0) 方 滞 込)が 納 が な 八 1

な審 に **※** 済  $\mathcal{O}$ 了 よる審 11 査 0) 安(5) 承 場  $\mathcal{O}$ 見定借 申 合 < 結 込  $\mathcal{O}$ 入 ださ 果、 ŧ 査 4 た 金 一を実施 0) あ  $\emptyset$ 込み後、  $\mathcal{O}$ ご希 あ で り 使 ま る あ 途 望にそえ 方 す 金 0 L が て、 ま  $\mathcal{O}$ 融 す。 生 機 関 返 活

## 資 額 箵 利

 $\mathcal{O}$ 費 医円七融 療 以 〇 内 万 住 円 宅 教 年 以  $\mathcal{O}$ 増 育利内 改 特 冠 八 例 費 婚 % に 百

出 員 資 数金 返 五 済 年 以 次内(七  $\overline{\bigcirc}$ 均 万

0

下

返

間と方

円

超

等

月

本

え 場 会法担のと す者 合  $\mathcal{O}$ 人 し 保 L  $\mathcal{O}$ 信 日  $\mathcal{O}$ 保 ま 証 7 で 用 が 他 本 す 料 不 基 は 証 社 に 承 労 は 要 連 金 寸 すくすく で ŧ 融 諾 働 全 帯 協 な 子育 資で す 者 お 保 が 額 会 得 信 東 証 が 日 て き 5 用 京 保 本 ま れ基般都 は 証  $\mathcal{O}$ せ 労 介 場 さ な金社が 原 し ₩<sub>°</sub> 護 協団負合則ま働 1

で  $\equiv$ 

あ

か

ど

ち

5

か

東

京

都

に

あ

る  $\mathcal{O}$ 

左 記 記まで。

ro.tokyo.jp/ http://www.hataraku.met

## 合 員 名 簿 が 完 成 !

<u>-</u>

九

110110

 $\frac{-}{\circ}$ まなど 今 関 組年 た 年 係 合 版 ŧ 各 員 組 方 合 会 員 面 名 友 に 九 配 簿 布 協 が  $\stackrel{-}{\circ}$ 賛 完 さ れ 会 成

れ回 組し 刊役合 員 員 れ改名 る 選 簿 ŧ  $\mathcal{O}$ は  $\mathcal{O}$ 年 に 改 年 訂 に 年さ

賦は に 発 発 協 刊 刊 さ 力 に を あ れ 頂 た ま き ŋ L た L 各 広

申

げ

ま

ス 京 ル 表 東お 協 チ オ 1 賛 取 願 あ ユ 支 ポ ヤ フ 口 会 締 り 11 部 ま 1 7 役 11 たし ] ス ツ ピ • L (有) ジ  $\vdash$ ポ Ш た 信 端 ユ 代 ジ ま 工  $\mathcal{O}$ 表者 星 ス 信 ヤ す で 夫 ン ] イ 彐 (株) ク ル



に 対 ご 対 L 員 ま 改 L 選 て、  $\mathcal{O}$ 年 改ま 8 て た た た 厚 社 告 8

# 訂

代 IJ 東 工 を 表 が名 者 簿 発 渡 刊 邉 真 左 記 訂の 正訂

## 知 で す か

## ı 0 ンタ "/

は

## Ι o T の Š み

どを は 7 す そ 態 す ノ リ : Ι ホ る れ を る Ι を 操 か L 12 セ О O Š 対 作 5 1 Τ Τ み して サー 力  $\mathcal{O}$ す ン 1 を 」 で るス ス ギ 代  $\vdash$ 表 Þ 何 で す。 マ 取な 例 エ 1 6 < ] ア か で ル 七 ŋ す。 コ 1 L 専 を L 1 た て、 の説 家 ン 用 電 な ス ア 作 状 眀 製 す

る

Ι

で エ 量 す ア 計 ラ な どの ブ ル 機 デ バ 能を イスもそう 備 え たウ 知

身

近

な

ところ

で

は

活

動

ることが エいサ ŧ た ] う イ」「サ デ 少 バ ま L で 1 ĺ た 分 きま は ス)」「ゲ センサ \_ す Ś す ٤, で 説 ] 明  $\vdash$ が セ す ウ 0

な表 を比得 て 得の 操 較 サ 示 し L 気 ] 作 た 状 温 態」 バデ 分 ジ ] ] 析 心 す ŋ タ に タ を し 拍 を 送 る た ル セ 数 集 ŋ ツ 結 デ ン  $\mathcal{O}$ ま がセ果計 ] サ 湿 す タ 1 基 ] L た لح 本ジ機 で 的を器 り取し 取

け 7 ŧ ス 手 7 ホ で で 力 開 ギ 錠 を で 開 管

T 7 ア き 自ホ に る 動 が 設 ス で 認置 7 開 証 L 情た 錠 卜 す 報 セ 口 る をン ツ 送 サ ク 仕 受 組 ] は み信 لح で ス

例 工 適のの Ι 場 と が 化 メ は 造 О ン 挙 に L に 製 Τ 業 テ げ て お 活 造 に で 5 は け 用 ナ 業 特 活 ンス れ る I が  $\mathcal{O}$ に用 ま 進 さ 機 分 注 械 んや す 野 目れ О で、  $\mathcal{O}$ で 管 Τ L 異 活 い理 て 常 用まの機 11 О す。 検  $\mathcal{O}$ 最 器 る

セデ L な を どの ] ま 設 工 タを す 置 場 0 し、 デ  $\mathcal{O}$ まず正 登 ] 機 録 タを 音や振 械 L に て 常 取 セ おな 得 動 ン い状 + サ 7 態 蓄 温 積 度 1  $\mathcal{O}$ 

度 な تلح す 省 ス レ せ を ると た ン ほ人テ が K ス 比 サー に か化ム バ ŋ 較 判 で 断 ツ 通 設 パ し で 自 ク 定  $\vdash$ な で 知 する - ラン を送 て した がら 取 得 化 11 る プ 異 す た L メ す こと など を点 くみ ] 常 る る ル と デ لح を で ファ 判 ] 灯 す。 イ ド で さ 断 タ

> < ス

Ι

О

Т

化

で

きる

発

L

た

乾

電

池

で

理 デ に タ を自 工 場 動 内 取  $\mathcal{O}$ 得 す温 度 る

ŋ

ま

す

子

供

向

け

 $\mathcal{O}$ 

育

玩

Т K Internet of んでいます。 Ι 分用現ま 立を す。 野 さ 場 T 防 لح Ι れ る 0) P 11 で О だ だ Ι オ 工 人 L フ 場 ŋ  $\mathcal{O}$ 丰 О て イ 以利 Τ に Things) 2 外 ス 用  $\mathcal{O}$ V 品 ょ こと ま な で が 晳 る Industrial うす。 ŧ さ 管記 を で れ理録 特 £ 産 作 てに漏 呼 に 業 利 業 い役れ

### て Ι o T は V ろ V ろ 使 わ れ

 $\mathbf{M} \ \mathcal{T}$ も近 0 たく  $\mathcal{O}$ を な た 製い 例 活 Ι わ ピ 造 を 2 ジ 用 さ О た 業 L ネ W Τ L B 0 た た ス あ 製 オ 利 商 5 ŋ 品 紹 フ 用 品 ま に 介 • ĺ イ • す + と だ 0 ス ま サ ] つ け 1 て と す ピ で Ι 0 ピ ス 身 な О 1

が M a В a В е е е е е ~ е は ピ 1 1 バ

と e 4 電 L е 電池製 て 池型品開 入 е れ を を のを 作 る 単 セデ バ 3 ツ で 1 き 電 1 る Ι 池 L ス ょ で た で О う T に 機 動 M す く a。 < a な器機 B単乾

> に具 利 用 高 さ 齢 者 れ T  $\mathcal{O}$ 4 11 ま ま な

v a С 力

ど 席うか り、 ま ネ 取 れ で ネ  $\mathcal{O}$ ・ツト す。 す 得 た ] a セ か Ŀ L ジ き Α С う で Ι 経 た ン 状 V a デ サ かが 表 を 由 ス 況 n ĺ 1  $\vdash$ 解 は、 確 で 示 を サ ラ 認 空 析 タ P す デ 一きが るサ 1 を 力 L に タ て 1 メ て バ ス 表 ] ラ 設 ] ル  $\vdash$ あ ン タ か 置 る 今 サ ラ 示  $\sim$ ピ 1 か 満 送 ] 5 さ ス

便 況 て 5 情 対 利 7 いる に 性 を ホ 報 用 L 混 確 サ て を 0 を L  $\lambda$ ブラウ 1 IJ 高 認 Q 提 た で にできる ネ ア  $\Diamond$ R 供 11 VI て ル コ L と な ] V ザ ジ て タ 1 11 ように発由 に う ま *\* \ 1 ド と こ ま す ら経 表  $\Delta$ す で ] 示 混 ろ さ ズ L 雑 で 利状スれ さ雑にを

動ル 視 に状 駅 施 イ 況 ネ 表 Þ J 東 た 示 を R ニデジ L を ジ 京 実 東 と 比 たとこ 証 獲 駅 日 内 得 タ 実 本 験 較 ル 力 L لح ろ、 フ サ で ま L 共 1 は エ て 同 多 既 ネ  $\mathcal{O}$ 1 で く存 空 大 宮 のサジ き 実

究 会 ※ ホ J 1 Α ム G Α 1 T ジ印 ょ 刷 ŋ 総 引合 用研

## の 使 用 限

使 え 試 度 す る 験 は ŋ Ī を 浩 効 は う、 き 行 し 目 て 未 て 品がか開 変 5 1 質 封 ま を わ  $\mathcal{O}$ す ら 5 確 状 ず 認 五. す

般 使 用 用 医 期 限 品 が 印 刷 合 は 7

て れ服 医 適 P な 師 用 症 あ ど L  $\mathcal{O}$ 処 状 な

ことも 思 症 すけ 勧  $\mathcal{O}$ ると、 わ 状 ま 時 す せ め が に さら あ 副 す 使 と で 7 方 ŋ 作 で 残 < 0 果 É 、ださ 用 に た 同 た 0 诵 が り、 た 悪 じ が ŧ な ょ 出 化 判 ŋ カュ いに  $\mathcal{O}$ カゝ う 6 最 た 断 L 他 で L 0 り た と で て  $\mathcal{O}$ な  $\mathcal{O}$ 後 す た す り 使 は 人 症 11 4 ま ŋ

## 保 管 方 法 はす

児

が

 $\mathcal{O}$ 

 $\lambda$ 

で ず

ま

0 す

た き

ケ に

]

ス

た

を、

か

な

乳

幼

す 1

がそけ 法 あ れ P 12 < 11 لح ŋ ぞ す あ が は す す ま る 違 < 思 ŋ り 11 ŧ す 箱 は V 適 は ま り が  $\mathcal{O}$ に ち 光 す 入 4 な 0 た ど  $\mathcal{O}$ ょ で れ な ŧ 保 影 温 0 す 7 同 管 あ 響 度 て が お ľ 方 っを P 保 け ょ 受 て 湿 管 実 ば う

No159 健康がいちばん!

薬の使用期限はどのくらい

あまった薬の処分方法は

ŧ 以 保 ŋ 下 て凍 温 でい 結 下 存 度 に  $\mathcal{O}$ 高  $\mathcal{O}$ ま す  $\mathcal{O}$ は 0 温 車す る 所 に 内 保 所  $\bigcirc$ なは夏 は 存 ま  $^{\circ}$ C る 5 の は  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 0 盛 不 た 以 Ł 場 は で、 可 下 5 り 合 لح と 八 + さ <  $\bigcirc$ 炎 で 五. 室 天  $^{\circ}$ C

さ り り Þ だ

B は 点

す

11

で 後 تلح

意 品

て が  $\mathcal{O}$ ツ L

< 変 < プ 7

の封

注は

質

開

る

 $\mathcal{O}$ 

を

的

に

<

す

n

 $\mathcal{O}$ 

保

L 飲

午

前 故

 $\infty$ 

時

カゝ

6

多

誤

0

事

は

親

が

家

事

で

 $\lambda$ 

 $\mathcal{O}$ 解

さ

特 そ

に れ

口 認

シ 確

眼

剤

な

 $\mathcal{O}$ 

液

状

せ W す 酷 ょ ŋ を で す。 す る  $\mathcal{O}$ 車 は  $\mathcal{O}$ 中 B 8 に

に 患

合

わ さ

用 状 0 1 りブ親 て す を る 乳 か切 ル が L る テ 傾 幼 な な 保 ま 児 に ] 向  $\mathcal{O}$ 管 1 うこ わ用 食 ブ が は 所 は 場 意 後 乳 ル あ 所 ح 12 L に 幼 ŋ の 何 で が <u>ر</u> て 児 置 ま  $\mathcal{O}$ で 幼 お Ł あ ŧ 児 が V す か う 11 う ŋ  $\Box$ た  $\Box$ لح な と テ まま くす た ま に で 手 V に < す 0 入 入 す

すこと で、 毒 乳 誤 ŧ 幼 飲 あ 家 げ 児 重  $\mathcal{O}$ 庭 ŋ ŧ 大な は 事 0) 油 少 故 中 断 す な 薬 は で 'n は Ś 物 非 能 0 で ĺ 常 あ 中 力 こう き ŋ 毒 が 対 に ま ま を 弱 す 多 せ Ś 起 < L せ い ん。

温 午 忙 だ し 発 ょ け 11 し 後 は時 V う 7 六 で 時 ŧ, ま 0 ふす。 カコ 5 < ŋ 八 ど す L て ŋ れ 時 ほ 頃 ど忙 管 に き

ま理

医 師 飲■ 4 余 忘 処 れた 方 な どで さ は れ う 余 す 0 た る 薬

医

療

用

医

薬

医

師 た

院

な

ど で

処 場

方

さ

れ は

で

₽

つ

ま < 4 L う 忘 L B 自 は 己 ょ 判 < 断 ŋ W

大

届

ことに 要 重 カュ لح 増 状 中 た ぎ 中飲 ること な ŧ. え に ま  $\mathcal{O}$ 複 薬 が て 断 0 7 改 7 な 7 を は る 適 L  $\mathcal{O}$ て、 ŧ 善 複 処 医 理 切 他 11 11 11 11 あ 薬 る 数 < 方 L 師 薬 由 る な لح 悪 が を 場 ŋ が Ł  $\mathcal{O}$ L な は 服 ま 処 と き 気 飲 さ 合 医 循 用  $\mathcal{O}$ ŧ す 方 付 ま 療 環 薬 な が 種 ž さ 5 لح は 機 に が で で 類 ず 飲 さ と 11 ま き 関 陥 が れ 5 新 な で 薬 ょ ま て む 薬 に る な 多 す が か た症 が る 必 に 11

れ に ŋ れ

切 れ 年 ま  $\mathcal{O}$ な 7 間 す  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ つ 0 475 高 た ょ 切 治  $\mathcal{O}$  $\Diamond$ 11 ŧ うに る で 危に 齢 薬 療  $\mathcal{O}$ を す 険 ほ 億 者 無 だ そ ど。 円 飲 0 を 駄 な 減 L 以 け 残 4 は、 薬 げ に 残 6 て 上 医 لح て 療 限 L 75 て 飲 費 推 لح 0 な < 歳 呼 ど 4 節 計 て び 適間約 で さ 以

引 用

## カラーLED ラベルプリンター トナー方式・卓上型「Pro1050」発売



で 同 L 売 機 Е L は D ま 卜 ラ ナ ル ] プ 方 リ式 ンの タ 力 ラ

けべ価六一 作ルで七一沖

い変九

 $\mathcal{O}$ 

つ性

で

E必い

D 要

ラな

ベ分

止

ルだラ

1

力

ラ

化

ょ

る

誤

を可○のデ

)で

は 高 ŧ

カの

ラほ

安

1 سلح **7**3 区

六

五. 浦

兀

タ

兀

な

る

ほ

لخ

ざ

新

製

山

る

長 期 保 管 に 耐 え

2

 $\lceil ext{Pro}1050 
floor$ 

あ文 水 字③性 再意耐 現 性 き な な 耐  $\mathcal{O}$ 特の性 徴 微 が細

等た 性 な 印 ル視D が目とがイキ問リ刷用転写このめ④、③の③刷①の認ラこあ詰イ高ンジ題ボラ途写プこ の特メシ擦耐でプで安内性べれっまン価キェがンべに専リれ 価製にルらたりク、ジッあのル応用ンま かコ優プに。がが専エトり廃がじのタ 多に用ップ 棄必たラーの いじ氏トリーが要複べは 般 なむを専ン般面 数ル ど、使用タ的倒使のが高的 のへわラーなな用プ必価な 欠ッなべでイど済レ要な熱 点ドいルもンのみ印 熱転

なスカリ比 トたンベ べ をカタ今 ル削ラー回 媒減しなの 体でラら L にきべ , E

、レき 他徴ンン過水 にがテプ性性在印る あナルに、庫刷 高るンなす耐管口 。ス内ぐア理し が部れルがル 容構るコ簡が | 単不 易造  $\mathcal{O}$ ル 要

あ級白+色にや広力 出下イが色が、べ せ地ト少移滲水ル る印特なりまに売 な刷色いやなぬ位 どが印、経いれの の出刷C年 特来にMにこも択 よYよす文肢 徴 ` も高りKるれ字が

五厚ル光質紙五▽二三▽ル外方○○ニ五子連 ○・、沢・長・印・○用紙径式○○・二写L▽機る感色ホあよ画がでmm○フ紙 im さ七刷七 mm 紙コ・・×× mm 真E印械 。がのワせる像るラ 通・六可■▽幅アニロ六ーニ四方D刷仕 ・イラ 五・・紙d○解▽印カ・次 d像最刷ラデの p度小速 ○ ▽紙ベm可・・さm・▽ 1 i · 余度乾 タり  $\nabla$ ・用ラル▽能一八・~ニロル給 ・式ル ・用ラル▽能一八・~ニロル給\一白・式ルニ紙ベ、紙用ニョーーョー紙紙六二・一電五

11

対